

特別勘定クォーターレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アパディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■ 基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	▲5.79%	▲6.41%	▲9.09%	▲13.80%	8.99%

■ 資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株式	49.60%	50.00%	-0.40%
北米地域	30.63%	31.69%	-1.06%
欧州(除く英国)	8.35%	8.24%	0.11%
英国	2.80%	3.59%	-0.79%
日本	5.58%	4.26%	1.32%
香港・シンガポール	0.14%	0.86%	-0.72%
豪州・ニュージーランド	2.10%	1.36%	0.74%
債券	49.90%	50.00%	-0.10%
米ドル圏	19.20%	18.69%	0.51%
欧州(除く英国)	15.39%	16.31%	-0.91%
英国	2.89%	2.97%	-0.08%
日本	12.42%	12.04%	0.38%
現預金	0.50%	0.00%	0.50%
合計	100.00%	100.00%	0.00%

■ 通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	50.64%	50.51%
ユーロ圏	22.95%	22.75%
イギリスポンド	6.69%	6.56%
豪ドル(含NZD)	2.20%	2.09%
スイス・フラン	2.22%	1.79%
日本円	15.30%	16.30%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称	グローバルマーケット型
主な運用対象の投資信託	世界バランス・ファンド (適格機関投資家専用)
投資信託の運用会社	アパディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
▲5.64%	▲6.43%	▲9.23%	▲14.25%	4.94%	33.70%

特別勘定資産内訳

				構成比(%)
現預金	・	そ	の	4.2%
投資		他	託	95.8%
合		計		100.0%

■ 上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 150)

株式	国名	業種	投資比率
EOG RESOURCES INC	アメリカ	エネルギー	2.10%
CVS HEALTH CORP	アメリカ	生活必需品	2.09%
ROCHE HLDG AG	スイス	ヘルスケア	2.02%
NOVARTIS AG-REG	スイス	ヘルスケア	1.97%
ORACLE CORP	アメリカ	情報技術	1.92%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	1.89%
PEPSICO INC	アメリカ	生活必需品	1.64%
PHILIP MORRIS INTL	アメリカ	生活必需品	1.52%
SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	韓国	情報技術	1.38%
JOHNSON AND JOHNSON	アメリカ	ヘルスケア	1.27%
合計			17.78%

債券	クーポン	償還日	投資比率
イタリア国債	0.700	2020/05/01	2.94%
アメリカ国債	0.625	2017/07/31	2.58%
ニュージーランド国債	6.000	2021/05/15	1.76%
アメリカ国債	1.375	2020/08/31	1.74%
フランス国債	0.000	2020/05/25	1.45%
アメリカ国債	2.500	2045/02/15	1.38%
スペイン国債	1.600	2025/04/30	1.04%
アメリカ国債	1.750	2022/09/30	0.93%
アメリカ国債	0.000	2016/09/08	0.87%
ドイツ国債	0.500	2025/02/15	0.81%
合計			15.49%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

(4月) 日銀短観で低迷する景況感が示されたこともあり、株価は日経平均で17,000円を挟んだ揉み合いとなりました。

(5月) 消費増税延期などの景気刺激効果を期待して株価は上昇しました。

(6月) 英国のEU離脱選挙の開票時間にあつた東京市場は大きく揺れ、月間でも10%近い下落で月末には日経平均で15,500円台となりました。

・日本債券

(4月) 日銀の金融政策の現状維持に対して、先進国の中で日本は利回り低下が進みました。

(5月) マイナス金利がさらに進行し、10年国債利回りはマイナス0.1%台になりました。

(6月) 三菱東京UFJ銀行が国債市場特別参加者資格を返上すると報じられましたが、10年国債利回りは過去最低水準を更新し、マイナス0.2%台になりました。

・外国株式

(4月) 原油価格の上昇等を好感しつつも主要国では横ばいの動きとなりました。

(5月) 堅調な原油価格やギリシャへの追加支援合意等を受けて主要国の多くで上昇しました。

(6月) 地域格差が大きくなり、マイナスは欧州、米国は変わらず、プラスは英国とエマージング地域になりました。

・外国債券

(4月) 欧米主要国ではFRBおよびECBが下した想定内の決定を受けてやや上昇しました。

(5月) 先進国の利回りが低下、新興国が上昇となり、6月か7月の再利上げが急浮上した米国はほぼ変わりませんでした。

(6月) 英国のEU離脱選挙の結果を受けて、利上げ懸念が遠のいた米国などを中心に世界的に利回りが低下しました。

・為替

(4月) 日銀の追加緩和が期待された反動から、円は対米ドルで108円台まで急伸するなど全面高になりました。

(5月) 概ね円安で、利下げのあったオーストラリア・ドルが売られ、米ドルおよび英ポンドが上昇しました。

(6月) 一時1米ドルが99円台に突入するなど、円は急騰して全面高になりました。

運用概況

・今四半期(2016年4月～6月)のファンドのパフォーマンスは、基準価額ベースで-6.41%となりました。月別に見ると4月が-1.62%、5月が+0.97%、6月が-5.79%となります。円は全面高となつて為替は大きくマイナスに寄与し、債券は世界的な利回り低下によりプラスの貢献でも、株式のプラス寄与は相殺するには小さく、基準価額は大きく下落しました。

・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを上回りました。その主なプラス要因となつた銘柄選択効果は大きくプラスで、株式部門では米国とオーストラリア・ニュージーランドでベンチマークに劣後した以外では、欧州、日本、特に英国などで大きく上回りました。債券部門ではデュレーションを短めにしてきた米国や日本で引き続きマイナスとなりました。資産および地域配分効果は全体としてはマイナスで、株式部門では市場の下落した日本へのオーバーウェイトはマイナスに、先進国をリターンが上回った新興国への配分はプラスに寄与しました。為替は、全般に中立の配分となり、寄与は限定的となりました。

・今四半期の資産配分については、概ね前期のポートフォリオを維持しました。株式と債券の配分は、世界的な債券利回りの大幅低下を受けて株式のオーバーウェイト、債券のアンダーウェイトへと変化がありました。株式について、欧州は期初の中立から一時的にオーバーウェイトへ変化させました。新興国市場にも投資を継続しています。債券については、現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトを継続し、一時的には欧州(英国除く)も新たにアンダーウェイトに加えしました。為替に関しては、期初には全般的に中立としましたが、英国のEU離脱への懸念から米ドルのオーバーウェイト、ユーロのアンダーウェイトに戻すなど多少変動はありました。

運用方針

・英国のEU離脱ショックはある程度相場に織り込まれたと考えており、株式と債券のウェイトについては現預金分を除き中立を基本とする予定です。

・株式については日本および豪州・ニュージーランドのオーバーウェイトを継続する一方、北米地域、英国および香港・シンガポールをアンダーウェイトとする方針です。

・債券については現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトとする方針です。

・為替に関しては金融政策の方向性の違いから米ドルをオーバーウェイト、ユーロをアンダーウェイトとするものの、ウェイト幅は縮小する予定です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して(年率 0.75% +運用実績に応じた費用 ^(※))/365日を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が年率 1.5% を超過した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.7344%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご留意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「スイス年金」は現在販売しておりません。

[募集代理店]

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ / <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>